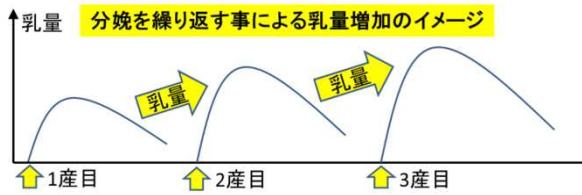


分娩後早期の定時人工授精技術による繁殖成績の向上

【背景】 乳牛の繁殖成績の向上は、乳生産量の向上や後継雌牛の確保、子牛の販売収入の増加と直結するため、酪農の経営安定化のために必要不可欠である



繁殖成績

受胎率(人工授精の実施数に対する妊娠牛の割合)や人工授精率(人工授精の実施頻度の指標)、分娩間隔など、複数の指標がある。

分娩間隔

全国平均432日
兵庫県平均**444日**

繁殖成績低迷

原因として...

- ・分娩後最初の人工授精の遅延
- ・初回人工授精の受胎率の低下

分娩後早期に良好な受胎率が得られる人工授精技術が求められている

【成果1】分娩後早期における定時人工授精技術の受胎性の検証

定時人工授精法(オブシンクシダー法)

※複数のホルモン剤を組み合わせる事で人工授精の日時に合わせて高確率で発情・排卵を誘起させる手法



従来は卵巣に疾患のある牛や長期間妊娠出来ない牛に対しての利用が中心

分娩後早期からの積極的な技術の利用による繁殖成績への影響を検証

早期定時人工授精試験の繁殖成績

	県下平均 (2015年)	早期定時授精 試験成績(18頭)
初回人工授精 日数(日)	96.9	77.0
受胎率(%)	27.8	55.6

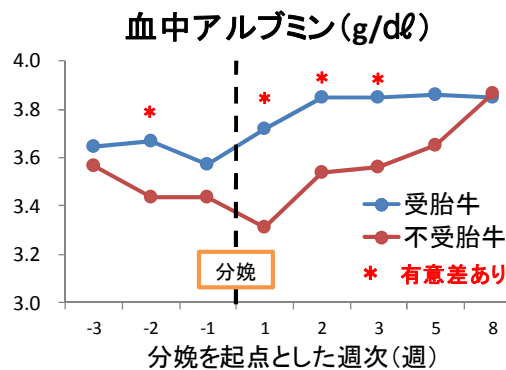
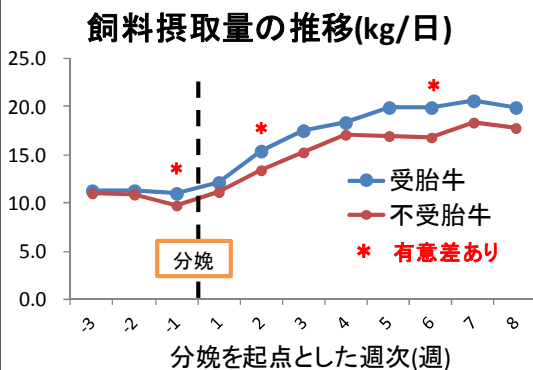
受胎までの平均日数が約40日短縮できる

短縮による経済効果を1,500円/日とすると、**1頭あたり6万円の収入増**

**搾乳牛50頭の酪農家で
年間300万円の収益向上!**

【まとめ】定時人工授精技術は分娩後早期に利用しても良好な受胎性が得られる

【成果2】早期定時人工授精の受胎性に影響する要因の検証



早期定時人工授精での受胎牛と不受胎牛を比較すると、不受胎牛では飼料摂取量が少なく、栄養状態を反映する血中アルブミン値が低く推移した。

【まとめ】早期定時人工授精で好成績を得るためには、分娩前後の栄養状態を良好に維持する事が重要

【今後の研究方向】①試験の例数を重ね、早期定時人工授精の受胎性に影響する要因をより詳細に検証する。②酪農家における現地実証試験を実施し、飼養管理の異なる牛群での受胎性を比較する事で、酪農現場における技術の有効な活用法を検証し普及に結び付ける。